

平成25年11月18日

各 位

株式会社 みちのく銀行

「共同利用型^{キーマン}KeyMan」の全面稼動について

みちのく銀行（頭取 高田 邦洋）は、鹿児島銀行（頭取 上村 基宏／本店 鹿児島市）との間で、平成23年7月1日（金）付で締結した「共同利用型 KeyManに関する基本契約書」に基き、融資業務を支援する「共同利用型 KeyMan」の導入を進めてまいりました。

KeyManの一部機能（顧客管理機能・債権管理機能）については、すでに平成25年5月13日より稼動開始しておりますが、本日、平成25年11月18日（月）より、下記のとおり全機能を全面稼動いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「共同利用型 KeyMan」の概要

鹿児島銀行がこれまで単独で構築・運用してきた4つのシステム（①KeyMan、②KeyManS³、③KeyManPersonal、④KeyMan モニタリング）をベースに、複数行が共同利用できるように再構築したシステムです。

現在、鹿児島銀行のほか、十八銀行（本店 長崎市）、山梨中央銀行（本店 山梨県甲府市）が共同利用を既に開始しており、当行が4番目の導入行となります。

2. 導入の目的

- (1) 「共同利用型 KeyMan」を導入することにより、融資業務に関する内部事務に費やす時間を大幅削減するなど、事務効率化を図る一方で、お客さまとのコミュニケーションの時間を増やし、これまで以上に「地域密着型金融」を推進してまいります。
- (2) 営業店および本部の役職員が、お客さまの情報をリアルタイムで共有できることから、お客さまのさまざまなニーズに対し、営業店、本部が一体となったスピーディーかつ的確な対応がこれまで以上に可能となります。

- (3) 「共同利用型 KeyMan」を複数行で共同利用することにより、保守料、運用委託費、ならびにレベルアップ開発費等のランニング費用の大幅な削減が可能となります。

加えて、広域に亘る参画行の日々蓄積される地域特性を反映した膨大なお取引情報をもとに、それぞれの知恵やノウハウを結集した高度かつ先進的なビジネスモデルを構築してまいります。

3. 今回稼動したシステムと主な機能

(1) 「KeyMan (キーマン)」

① お客さまの財務内容の分析・改善に向けたサポート

お客さまの決算書を電子化することにより、財務部門の多面的な分析をスピーディーに行い、企業信用格付・債務者区分の決定等一連の業務を効果的・効率的に行います。

また、分析した結果は「財務診断サービス」としてお客さまに提供し、その内容をお客さまと共有することにより、財務内容の向上ならびに改善に向けたご提案が可能となります。

② 融資案件審査の業務効率化

お借り入れに関するご相談・お申込み受付から、実際にお借り入れいただくまでの銀行内部の一連の事務処理の状況について、リアルタイムでの進捗管理が可能となります。

(2) 「KeyManS³ (キーマンエスキューブ)」

日常の業務活動を通じて蓄積される、お客さまに関するさまざまな情報をもとに、科学的なマーケティングを行い、その分析結果を今後の営業活動や信用リスク管理に活用する営業戦略サポートシステムです。

(3) 「KeyManPersonal (キーマンパーソナル)」

個人のお客さま向けのローンに関する、業務処理支援システムです。

(4) 「KeyMan モニタリング (キーマンモニタリング)」

上記(1)から(3)のシステムに日々蓄積されるデータを、本部においてモニタリングするシステムです。店舗別の融資実績の結果だけでなく、その結果に至るまでのプロセスを分析するシステムであり、融資業務のPDCAサイクルの実効性を高めることが可能となります。

以上